

# 渋谷ストリーム 渋谷駅中心地区デザイン会議 協議内容について

## 01. 建物概要

所在地 東京都渋谷区渋谷三丁目 21 番 3 号  
事業主体 東京急行電鉄株式会社 有限会社鈴基恒産 名取康治 名取政俊 山善商事株式会社  
叶不動産株式会社 渋谷九十池田製パン株式会社 有限会社清風荘平野ビル  
主要用途 事務所 ホテル 飲食店舗 ホール 物販店舗 駐車場  
延床面積 約 118,000 m<sup>2</sup> (118,379.92 m<sup>2</sup>)  
建物高さ 約 180m(179.950m)  
階数 地上 35 階 地下 4 階 (B 棟)



外観

## 02. 全体コンセプト

### “緑と水”・“にぎわい”を融合した南側の拠点づくり

渋谷川の緑と水を活かしながら、人々のアクティビティや動線を、活気づけ賑いを創出する景観を形成する

#### ■近景における景観形成コンセプト <見る・見られるの関係性>

##### ①賑わい・動線の可視化

アーバン・コアや低層部のポラス空間は周囲との空間や視線のつながりを配慮し、賑わい・動線の可視化を生み出す。

<連続する回遊空間>

##### ②空間の連続・分解消

JR、国道246号による東西、南北のまちの分断を解消し各街区と連携した東西自由通路（ストリート）、国道246号横断デッキによる空間の連続を形成する。

#### ■遠景における景観形成コンセプト <群としての象徴性>

##### ①駅南方向のスカイライン形成の中核

駅を頂点としたスカイラインと共に、南方向の中核を担う景観を形成する。

#### ■中景における景観形成コンセプト <多様性のデザイン>

##### ①南側の顔作り

駅南街区最南端に位置するホールのファサードや設えは、賑わいを創出すると共に南側の顔としての景観を形成する。

<緑と水を感じるネットワーク>

##### ②緑と水の南北軸

渋谷川河畔約600mにわたり緑道を整備すると共に建物の壁面緑化や低木植栽等で緑を演出し、渋谷川と連続した潤いのある景観を形成する。

<緑と水を感じるネットワーク>

##### ③他街区との呼応

屋上緑化や中間層に設ける壁面緑化等、人に物量として見える緑化を設けることにより他街区との呼応を形成する。

## 03. 最終イメージ



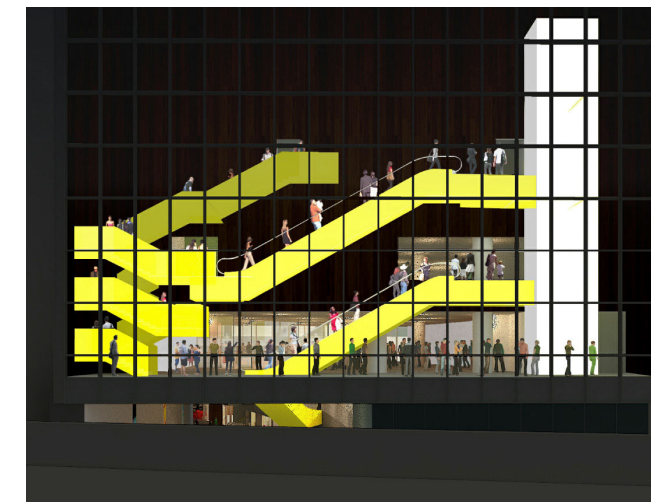
大階段



国道 246 号デッキ



アーバン・コア



ホール



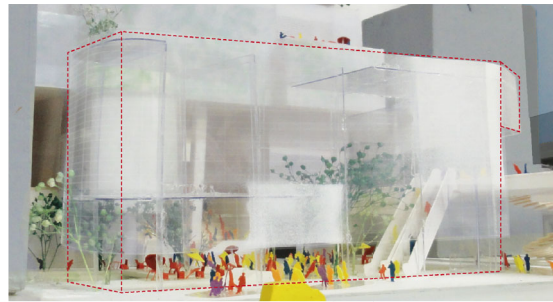
## 04. デザイン会議協議内容 (※抜粋)

### アーバン・コア

- 指針 - 渋谷らしいエリアや沿道ごとに個性ある街並み、多様な界わり、活気とにぎわい景観の形成

指摘：1. アーバン・コアが、明治通りに開いた形になるよう、機能とデザインの両面において対応する事。  
2. 賑わいを建物の奥に配して隠さないよう配慮して欲しい。

対応策：1. ブロック状の本体低層部や高層部の形状に対し、曲線を用いることでまちや明治通りからの視認性を高めた。  
2. アーバン・コアは、間を空けた2棟とする事で歩行者動線に配慮し、賑わいを創出した。  
3. アーバン・コアの天井を鏡面にし賑わいを表出させた。



本体建物が視認できるように  
ガラススクリーンを提案



賑わい創出や人々の動線が容易となるように  
間を空けた二棟にわたるデザイン



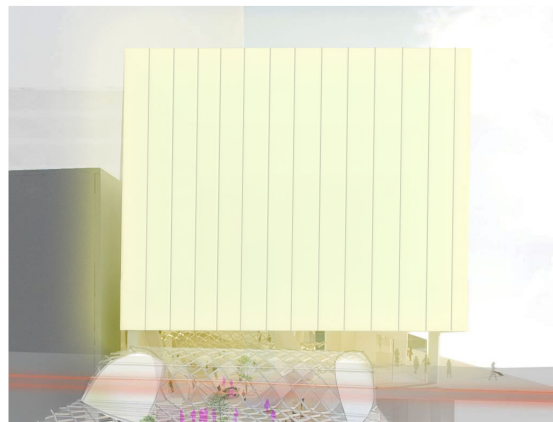
天井を鏡面にし建物高さを下げる事でまちの賑わいを計画敷地内に引き込む計画

### ホール

- 指針 - 渋谷の玄関口に相応しい、様々なアクティビティが感じられる駅前の顔の形成 (主に駅地区からの見え方)

指摘：1. 積極的なデザイン提案を出してもらいたい。  
2. 渋谷らしさに沿ったデザインとする事。

対応策：エスカレーター・階段を首都高速側に集約し、賑わい表出を演出



渋谷らしい細やかなスケールを踏襲したデザイン。



国道 246 号側に 20m の吹抜空間をつくり、エスカレーター、階段、エレベーターの垂直動線で人の動きを視覚化し賑やかな雰囲気渋谷に対して表出させた。